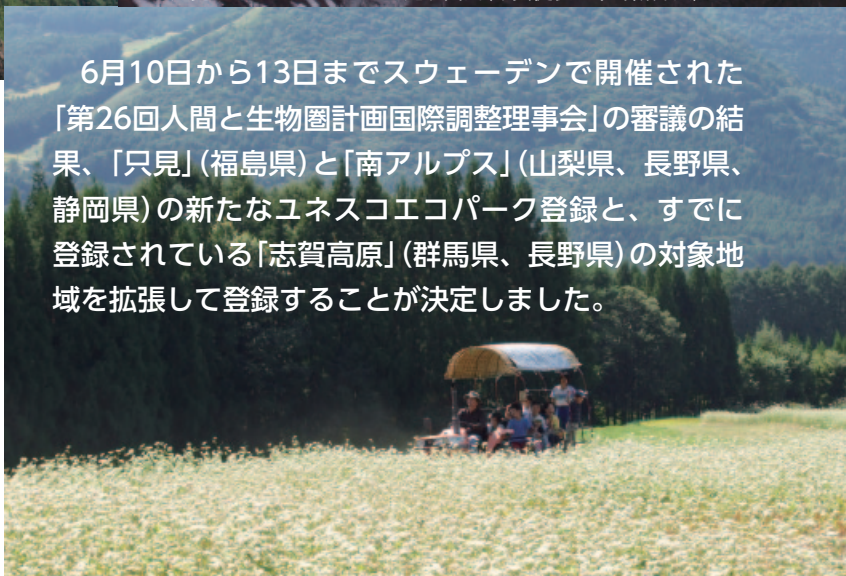


# 「只見」「南アルプス」ユネスコエコパークの新規登録、「志賀高原」の拡張が登録決定

只見ユネスコエコパークの鬼ヶ面山(写真提供：中野陽介氏)

南アルプスエコパークの主峰北岳(写真提供：広瀬和弘氏)

6月10日から13日までスウェーデンで開催された「第26回人間と生物圏計画国際調整理事会」の審議の結果、「只見」(福島県)と「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)の新たなユネスコエコパーク登録と、すでに登録されている「志賀高原」(群馬県、長野県)の対象地域を拡張して登録することが決定しました。



山ノ内町のそば祭り(志賀高原ユネスコエコパーク)

## ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、ユネスコが開始した事業です。地域の自然と文化を守りながら地域社会の発展を目指す取組です。

ユネスコエコパークはBiosphere Reserves:BR(生物圏保存地域)の国内呼称であり、119か国631地域、日本では今年6月に新たに登録された2地域を加えて、7地域が登録されています(平成26年6月現在)。

## ユネスコエコパーク3つの機能

ユネスコエコパークには3つの機能があります。個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係にあります。

**経済と社会の発展**  
(自然環境の保全と調和した持続可能な地域発展)

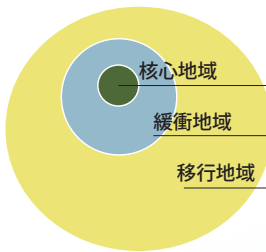
**学術的研究支援**  
(科学的な調査や教育の場を提供)

**保存**  
(生物多様性の保全)

## 3つの機能

## ユネスコエコパーク3つの地域

ユネスコエコパークは3つの機能を果たすため、役割の異なった3つの地域によって構成されています。



## 日本のユネスコエコパーク

日本のユネスコエコパークは、今年登録された「只見」(福島県)と「南アルプス」(山梨県、長野県、静岡県)、昭和55年に登録された「志賀高原」(群馬県、長野県)、「白山」(石川県、岐阜県、長野県)、「白山」(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、「大台ヶ原・大峯山」(三重県、奈良県)、「屋久島」(鹿児島県)、及び平成24年に登録された「綾」(宮崎県)の7か所です。それぞれの核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されています。



# 只見ユネスコエコパーク（新規登録）

只見地域は、福島県の西端で新潟県との県境に位置し、会津朝日岳、浅草岳など標高1,000m前後の山々に囲まれた山間地域です。冬季は日本の海に湿った空気を大量にはらんだ季節風によって多量の雪がもたらされるため、平地でも積雪が3〜4mに及ぶ日本有数の豪雪地帯となっています。

当該地域の山地には、豪雪が作り出す雪食地形（雪崩によって斜面の表土が剥ぎ取られ岩盤が露出した地形）の上に、ブナをはじめとする落葉広葉樹林のほか、針葉樹林、低木林及び草地等により構成されるモザイク植生が、原生的な状態で広大な面積に存在しています。

只見ユネスコエコパークの核心地域は、奥会津森林生態系保護地域の保存地区となっており、原生的な森林生態系の厳格な保全・管理が行われています。



ブナ天然林(写真提供：鈴木和次郎氏)

また、移行地域は里地里山が広がる農山村地域で、積雪地帯の伝統的な生活文化が継承され、山菜・キノコ類の採集、薪材の生産など森林資源の持続可能な利用が行われているほか、エコツーリズムも展開されています。



冬季の除雪風景(写真提供：中野陽介氏)



集落背後に迫る雪食地形とモザイク植生(写真提供：中野陽介氏)

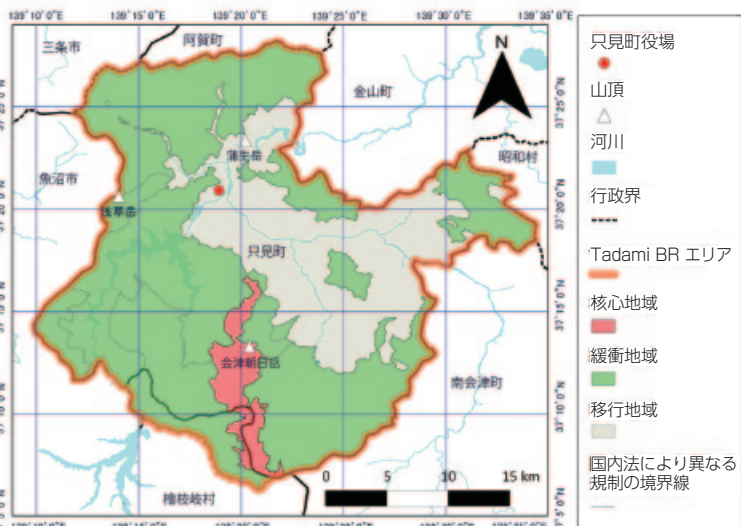


自然資源の利用：ゼンマイ折り(写真提供：鈴木和次郎氏)



只見町民による自然観察林の整備(写真提供：中野陽介氏)

## 只見ユネスコエコパークの概要



- 申請自治体 <sup>ただみまち</sup> 福島県只見町  
福島県の西南に位置し、西南部は新潟県に接しています。町の面積の約94%を占める豊かな森林資源に恵まれた、わが国屈指の豪雪地帯です。
- 面積 総面積 78,032ha  
 核心地域 3,557ha※  
 緩衝地域 51,333ha※  
 移行地域 23,142ha  
 ※一部に福島県檜枝岐村を含む



# 南アルプスユネスコエコパーク（新規登録）



桃畑と南アルプス鳳凰三山(写真提供：広瀬和弘氏)

南アルプス地域は、3,000m峰が連なる急峻な山岳地帯に固有種が多く生育・生息しています。また、富土川水系、大井川水系及び天竜川水系の流域ごとに古来より固有の文化圏が形成され、伝統的な習慣、食文化、民俗芸能等を現代に継承しています。

従来、南アルプスの山々によって交流が阻まれてきた3県10市町村にわたる地域が、「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」という理念のもと、南アルプスユネスコエコパークとして結束し、南アルプスの自然環境と文化



真原の桜並木と甲斐駒ヶ岳  
(写真提供：広瀬和弘氏)



初夏の南アルプス白根三山  
(写真提供：広瀬和弘氏)

を共有の財産と位置づけるとともに、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な利活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを図っています。

核心地域や緩衝地域は、南アルプス南部光岳森林生態系保護地域等として厳格に保全・管理が行われているほか、南アルプス国立公園及び山梨県立自然公園等に設定されています。

移行地域は、山地斜面に広がる集落景観が特徴的で、風土を生かした茶の栽培や、扇状地や河岸段丘上での果樹栽培のブランド化が図られています。また、自然体験施設が整備され、自然環境や地域の歴史・文化を生かした環境教育・エコツーリズム等も行われています。



大鹿歌舞伎(大鹿村)



世界の南限に住むライチョウ  
(写真提供：広瀬和弘氏)

## 南アルプスユネスコエコパークの概要

### ●申請自治体

山梨県にらさきし韮崎市、山梨県南アルプス市、山梨県ほくとし北杜市、山梨県はやかわちやう早川町、長野県いいたし飯田市、長野県いなし伊那市、長野県ふじみまち富士見町、長野県おしかむら大鹿村、静岡県しずおかし静岡市、静岡県かわねほんちやう川根本町

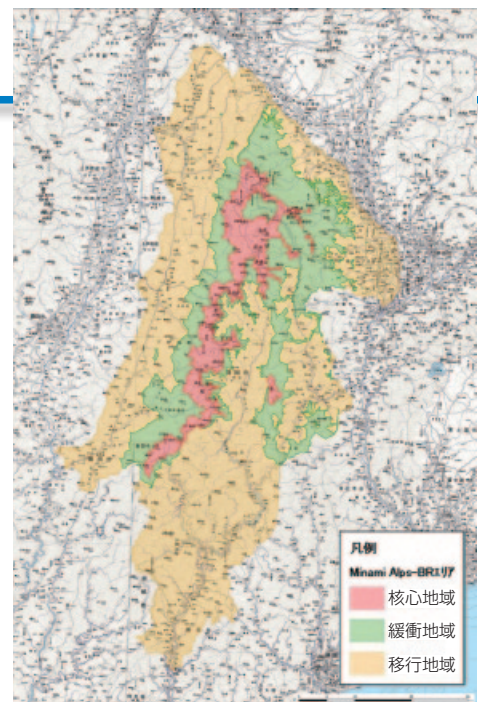
南アルプス(赤石山脈)は、静岡・山梨・長野の3県にまたがる山脈で、主要な部分は南アルプス国立公園に指定され、貴重な動植物が生育・生息しています。

### ●面積

総面積 302,474ha  
 核心地域 24,970ha  
 緩衝地域 72,389ha  
 移行地域 205,115ha



南アルプス





## 志賀高原

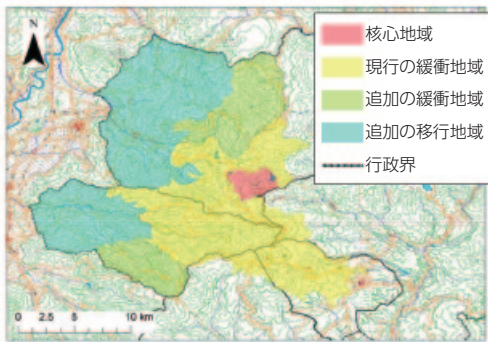
### 志賀高原ユネスコエコパークの概要

#### ●申請自治体

長野県山ノ内町、長野県高山村、長野県中之条町、群馬県草津町、群馬県嬬恋村

上信越高原国立公園の中心部にあたる火山性の高原で、秋山郷を流れる中津川の源流部です。高山に囲まれ、起伏に富んだ標高1400～2000mの高原には数多くの湖沼があります。

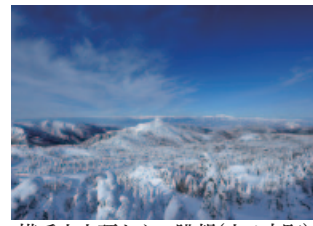
- 面積 総面積 30,300ha (12,700ha)  
 核心地域 700ha (700ha)  
 緩衝地域 17,600ha (12,000ha)  
 移行地域 12,000ha (0ha)  
 ※ ()内は拡張前の面積



核心地域の志賀山周辺(山ノ内町)

志賀高原ユネスコエコパークは、昭和55年に登録されましたが、平成7年にユネスコエコパークの機能として「経済と社会の発展」が追加されたため、主にその機能を果たす移行地域の追加を含めた拡張登録となりました。移行地域では、里山や温泉街の景観を保全・活用す

る地域づくりに取り組んでおり、昭和57年から推進している環境保全型農業は、日本において先進的な取組として知られています。



横手山山頂からの眺望(山ノ内町)



移行地域にある地獄谷野猿公苑(山ノ内町)



ワインぶとう畑(高山村)

# 志賀高原ユネスコエコパーク (拡張登録)

## 持続可能な開発のための教育(ESD)とユネスコスクール

ユネスコエコパークは持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)の学習の場として有効であり、ユネスコエコパーク、ESD、ユネスコスクールの取組を連携させることによる相乗効果が期待されています。今年の11月には、ユネスコと日本政府の共催で「持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議」が我が国で開催されます。

### ■持続可能な開発のための教育(ESD)

ESDは、持続可能な社会を構築する担い手を育てるための教育です。ESDの実践には、特に次の2つの観点が必要です。

- ①人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育てること。
- ②他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育てること。

※ESDには、関連する様々な分野を、持続可能な社会の構築の観点からつなげ、総合的に取り組むことが求められています。



出典：ユネスコスクールと持続発展教育(ESD) (日本ユネスコ国内委員会)

### ■ユネスコスクール

ユネスコスクールは、ASPnet (Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として、昭和28年に発足しました。

世界180カ国で約9,900校がASPnetに加盟して活動しており、国内では、705校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。(平成26年4月現在)

ユネスコスクールは、グローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指しています。

ユネスコスクール ホームページ  
<http://www.unesco-school.jp/>



ユネスコスクールの登山風景 (南アルプス市立芦安中学校)